

## オーストラリア 輸出の伸びが園芸生産額の記録更新を後押し

[FreshPlaza 2025年2月21日](#)

「これは、オーストラリア製品のより高い品質と価値が市場に受け入れられていることを裏付けている。」

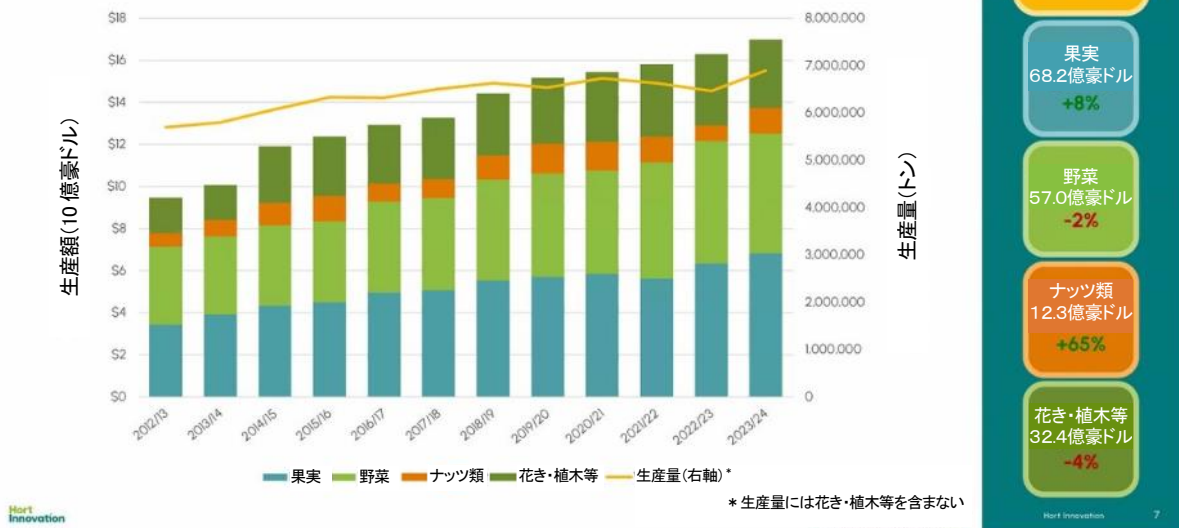
### 厳しい環境の中、輸出の伸びがオーストラリアの史上最高の園芸生産額を後押し

オーストラリアの園芸部門は、2023-24会計年度(7月~6月)に170億豪ドルを超える史上最高の生産額を達成した。Hort Innovation(園芸産業のための非営利研究開発法人)の年次統計ハンドブックによると、これは前年比4.3%の増加であり、輸出が大きな役割を果たした。(1豪ドル=約95円)

オーストラリア園芸統計ハンドブックの第11版は、全国の75以上の様々な園芸作物をカバーしている。Hort InnovationのCEOであるブレット・フィーフィールド氏は、オーストラリアの生産者は引き続き過去最高の投入コストに苛まれており、最近では病害虫の侵入や全国的災害の影響を感じているにもかかわらず、この数字を出していると語る。

フィーフィールド氏はハンドブックのオンライン発表に当たり、「我々のビジョンは、技術革新を基盤とする、収益性が高く持続可能なセクターである」と述べ、「今日のニュースは前向きである。オーストラリアの園芸は、2030年までに200億豪ドルのセクターとなる道を順調に進んでいる。果実部門は成長をリードしており、生産額は約5億豪ドル(7.8%)増加し、68億2千万豪ドルに達した。これは、ベリー類、柑橘類、バナナの好調な業績によるものである。このセクターの存続にとって輸出の伸びは重要な要素であり、輸出額は過去最高の約30億豪ドルに達した。これは、果実、特にアボカドと柑橘類の輸出によって推進された。我が国の野菜部門は強化を続けているが、その生産量は増加したものの総生産額は2.4%減少した」と語った。

### 生産額



Hort Innovationの業界見通しの責任者であるルーシー・ノーブル氏は、園芸セクターは真の成長軌道に乗っており、課題があるにもかかわらず170億豪ドルという驚異的な生産額の数字に達したことは、このセクターが持つ困難からの回復力の証であると付け加えた。

同氏は、「年間平均成長率は、複利で計算すると年5.5%であり、これは大きな成果である」と述べ、「今年、農場出荷額が伸び、昨年より約7億豪ドル増えた。これは果実の大幅な増加によるもので、その生産額は5億豪ドル(8%)近く増加し、68億豪ドルに達した。園芸セクターの生産額は、ナッツ類の回復にも支えら

れており、2022-23年度の厳しいシーズンから回復し、生産量はこちらも5億豪ドル近く増加して12億3千万豪ドルに達した。」

しかし、ノーブル氏は、それはすべてに当てはまる話ではなく、果実やナッツ類の全般的な成長が業界全体の生産額を押し上げた一方で、野菜部門の生産額は2.4%の微減となり、57億豪ドルに戻ったと指摘している。

### 果実 生産額上位8品目



果実	2024年度 増加率 %
生食用ブドウ	-18.2
バナナ	19.6
リンゴ	5.1
アボカド	5.1
イチゴ	18.2
ブルーベリー	19.6
オレンジ	9.7
マンダリン	18.2

全体として、昨年の生産量は7%増加し、ハンドブックにデータを提供したフレッシュロジック社(青果物データ会社)の経営責任者であるマーチン・ニーボーン氏は、いくつかの品目で回復が見られたと説明している。

同氏は、「生産量の増加は生産額の増加に繋がり、それは下落した品目の悪影響よりも大きかった」と言い、「原動力となったのはトマト、アボカド、夏果実、ベリー類であり、それらは生産額が減少した品目を補う以上のものであった。この数年に起こったことを要約すると次のとおりだ。75の様々な品目グループの一部が増えたり減ったりすることがあるが、全てにあてはまる傾向はない。我々を取り巻く条件は様々であり、輸出市場の状況も様々である。そうしたことが長期にわたる成長の回復を支えているようであり、特に過去1年の間には、生産量の回復と販売量の増加により、それが起こった」と述べた。

ハンドブックによると、柑橘類とアボカドをはじめとする果実の輸出が好調であったため、生鮮園芸作物の輸出も増加し、史上最高の27億5千万豪ドルを記録した。これは、この業界が過去数年間に経験した力強い輸出の成長軌道を維持している。生鮮園芸作物の輸出額は全体的に増加したが、いくつかの例外があり、生食用ブドウは輸出量で19%減少し、輸出額では14%減少した。

ニーボーン氏は、「量的に大きい品目を見ると、輸出量が年間4万トンを超えるものが7つある」と述べ、「これらの品目のうち6つでは輸出量が増加し、価格が維持されたか、または価格が高くなった。これはポジティブなことであり、収量の減少により生産量に影響を受けたブドウのネガティブなシーズンを補って余りある。アボカド、メロン、夏果実を筆頭に、輸出量を生み出す第2層の品目があり、心強いことにこれらは進歩し、より高いレベルに向かっている。一部例外はあるものの、ほとんどの品目で輸出量が増加しても価格は維持されている。これは、オーストラリア産品のより高い品質と価値が市場に受け入れられていることを裏付けており、励みになる。この結論は十分に幅広い品目から導き出すことができ、それは一層の輸出拡大のための重要な基盤となっている。」

## 輸出



ニーボーン氏によると、オーストラリアの輸出販売力はこれまでも実際の強みであり、成長の原動力となっている。一方、国内で生み出される価値も、少量の販売単位や廃棄物管理、買い物頻度の増加などを通じて、依然として増加している。同氏は、これは果実や野菜がより多くの世帯で購入可能になったことを意味し、それがより大きな販売額につながったことに加えて、人口の増加が需要への大きな刺激となっていると言う。人口が1%増加すると、年間3万5千トン以上の需要と1億2千万豪ドル以上の卸売販売額が発生するが、このセクターはその2倍の速さで成長している。

オーストラリア園芸統計ハンドブックは[こちら](#)

執筆者: マット・ラッセル